

C O R R E N T E

Centro Culturale Italo-Giapponese

わたしとロダリー®

* 古典的なおとぎ話から踏み出すあそび *

竹田 理乃

すっかり話題に出しそびれたまま 2020 年が終わってしまったのですが、この連載コラムでご紹介しているイタリアの児童文学作家ジャンニ・ロダリーは、2020 年で生誕 100 周年を迎えました。映画監督のフェデリコ・フェリーニと同年に当たります。彼らが生まれた 1920 年は、和暦で大正 9 年。映画化で大成功を収めて話題を集めた漫画『鬼滅の刃』のストーリーが進行している時期だと言え、小さな子ども達にも「あのくらいの時代か」と頷いてもらえそうです。国際連盟が成立したとか、アメリカで禁酒法が施行されたとか、歴史の教科書を開けばこの年に起きた重要事項が太字で記載されていますが、本を読んだり映画を観たりして生きていると、歴史年表のなかに学校で習わない個人的な重要事項が増えていくものですよ。

あつという間に過ぎ去ってしまった息苦しい 2020 年は、間違いなく歴史の教科書にいくつかの重要事項を太字で載せることでしょうか、いつかは「あの作家が生まれた年」だの「あの作品の舞台になった年」だのといった記念の年になるかも知れません。誰かがコレンテのバックナンバーを読んで、そんな記念日に関するメモのある年表の 2020 年という数字の横に「ロダリー生誕 100 周年」と書き足してくれるような未来があればいいなと夢想しつつ、私のエッセイなんて検索にも引っかからないくらい多くの関連情報が溢れるような状況になっていくことを、ロダリー愛好者として期待したい気持ちもあります。

最初に邦訳が出版されたロダリーの作品は、長編小説『チポリーノの冒険』でした。貧しくとも愛に溢れる家庭で育ったタマネギの男の子チポリーノが、不当に逮捕されてしまったお父さんを助け出すため冒険に乗り出し、仲間を集めて、暴政を敷くレモン大公に挑むという痛快なお話です。イタリアで 1951 年に発表された作品が、岩波少年文庫から 1956 年に出版されたのですから、すごいスピード感ですよ。そして、いち早く日本へ紹介された『チポリーノの冒険』を読もうと思えば、私たち現代の日本人読者には、翻訳家関口英子による 2010 年版の新訳という、もっと読みやすい選択肢も用意されています。



【ロダリー 100 周年記念のロゴ】

出典元: <https://100giannirodari.com/>

関口英子さんといえば、書店でよく見かけるといふ点において日本でもっとも手に取りやすいロダリーの著作のひとつ、短編集『猫とともに去りぬ』の翻訳者でもあります。この本は光文社の古典新訳文庫から出ています。現代的でオシャレな表紙と、文庫本のお手軽価格、そしてなによりも、難しげだと感じて敬遠してしまいがちな古典を身近なところに届けてくれる、今を生きる読者にとって親しみやすい翻訳が評判のレーベルですよ。その理念として掲げられている「いま、息をしている言葉で、もういちど古典を」という言葉は、なんだかとてもロダリーに似合う気がします。

子ども向けの文学における古典のなかの古典といえば、まずはフランス人の作家ペローによる『赤ずきん』や『シンデレラ』などが挙げられます。こうした口承文芸に取材した古典的なおとぎ話について、ロダリーは物語の創作方法に関するアドバイスをまとめた『ファンタジーの文法』の「第一次資料としての民話」など数章に渡って語っています。ここでロダリーはくわしたは、民話を生けにえとした模造品や、民話の教育学的曲解や、無邪気な民話が生み出した商業的利用(ディズニー)については何もいうつもりはない)としたうえで、特にデンマークの児童作家アンデルセンに〈現代童話の最初のつくり手を見出すことができる〉として称揚しました。

フランス王国ブルボン朝のルイ 14 世に仕えたペローは、宮廷人を読者として想定していました。なので、下級階層とされた人々に膾炙していた民話を紹介するにあたって、まずはその価値を前書きで説明しています。

われわれの先祖は、自分たちの語る話の中に、賞賛すべき有益な教訓が含まれているよう、絶えず大いに心を配ってきました。どの話の中でも、徳が報われ、悪が罰せられるのです。昔話はどれも、正直で、辛抱強く、思慮深く、働き者で、従順であるのが有利であることを、そしてそうでない者たちに起こる禍を示すものです。

『完訳ペロー童話集』朝倉朗子訳

つまり、ペローが子ども達に読ませるべきだとして採用したおとぎ話は、美德や悪徳のモデルと勧善懲悪の原則を示し、子ども達を目指すべき人物像へと近づけていくアメとムチの働きを有しています。女兒向けの『赤ずきん』や『シンデレラ』などは、運命の男性の訪れを慎ましく待つ、忍耐強い働き者であることを、男児向けの『長靴をはいた猫』などは、勇気と機知を発揮して出世し、富と理想の妻を手に入れることを教え、美德を持たなかった悪者が迎えるような末路を回避するよう促しているわけです。ドイツ作家のグリム兄弟やアメリカのディズニーの作品にも、この傾向は引き継がれました。

アンデルセンも同じく民話に取材したおとぎ話を書いています。ロダリーは〈アンデルセンはそうした民話を自らの追憶の中によみがえらせた。つまり、民話はかれにとって国民に呼びかけるためのものではなく、ふたたび幼年時代に近づき、それを取りもどすための方法にすぎなかった〉とし、イタリア児童文学の代表作『ピノッキオ』の作者コッローディや、ロダリー自身の先達として位置づけました。民話に登場する水の妖精に、子ども達が親しみを感じられる個性や人格を与え、報われない恋や疎外感に苦しんだ自らの人生にキャラクターを引き寄せることで『人魚姫』を誕生させたアンデルセンのように、古くから親しまれているお話に改変を加え、もっと身近で新しい価値観を含む作品に書き直すことを、ロダリーは奨励しています。

— むかし、あるところに、黄色ずきんという女の子がいました。

— ちがうよ、赤ずきんだよ！

『ファンタジーの文法』窪田富男訳

ロダリーによると、幼い子ども達は同じ感動をくり返し味わうことに喜びを覚えるので、おとなが〈お話をまちがえる〉ことを嫌がります。しかし、ふと飽きがきて、おとぎ話から卒業するタイミングが訪れたときに、お話を脱線させる方法を知っている子ども達は、ひとり歩きを始めます。子ども達がひとりで探検するお話のなかでは、赤ずきんがヘリコプターに乗っておばあちゃんの家に向かった

り、シンデレラが嫌なヤツで義理のお姉さんの恋人を奪おうとしていたりします。こうしたお話には、子ども達それぞれの好みや興味、価値観が反映されます。そして「もしも〇〇だったらどうなるんだろう」というお話に対する冒険心は、ことばを使って思考のトレーニングを行う場を用意します。

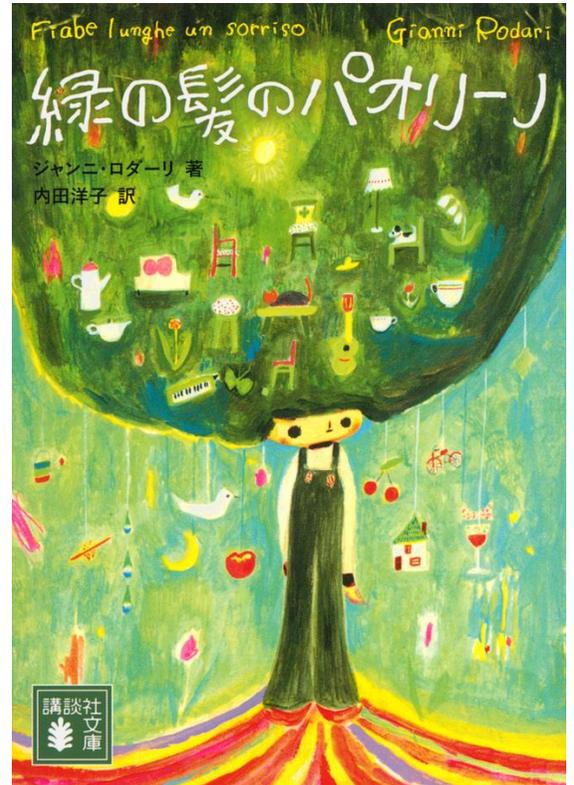
古いおとぎ話の効用について、ペローが目指した通りのくさまざまな人間やその運命の豊富なレパートリーを提供してくれる」という価値を認める一方で、ロダーリはそれらをくもうのりこえてしまった古代文化の型を反映しているだけだとしています。古びてしまった規範を観察し、それぞれのニーズに合った脱線をして遊ぶことで、自分が求めるハッピーエンドの方向性を探ることができるのです。

そういえば、このところ友人のあいだでディズニー・ジャパンが制作しているモバイルゲーム『ツイステッドワンダーランド』が評判になっているのですが、このディズニー映画に登場するヴィラン(悪役)から派生したキャラクター達のお話について知ったら、ロダーリはどんな反応を見せたでしょうか。

このゲームにおいて、白雪姫に嫉妬した女王から派生したキャラクターは、美貌と知性を磨き抜くことによって強い影響力を得た、向上心のあふ少年として描かれています。他者からの評価やライバルの存在などのプレッシャーを受けて、彼が自分を追い詰めていき、やがて限界を迎えるまでの経緯を見守るプレイヤーの多くには、きっと同じように努力が空回りして苦悩した経験があるはず。子ども達に「勤勉に働いて、貞淑に生活していたら、きっと王子さまが迎えに来てくれるけど、醜い感情を拗らせたら悪者になってひどい目に遭うよ」と教えていたお話が、いま、息をしているゲームというカタチで、もういちど私たちの前に現れて「理想の自分になれないことに傷付いて、癩癩を起こすことがあっても、仕切り直して再スタートすればいいんだよ」と語りかけてくれるようになったのだとすれば、なんだか心強いように感じられます。

今から100年先の未来まで、私たちが親しんでいるお話のすべてがそっくりそのまま残ることは

ありませんが、ロダーリのいう第一次資料としての民話は、読み手の求めるカタチに姿を変えながら、どこまでも長命を保ってくれることでしょう。ことばで自由に遊ぶことの楽しさと大切さを教えてくれるロダーリのお話も、このまま末永く愛され続けられますように。



【『緑の髪のパオリーノ』表紙】

出典元: <https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000339350>

[参考文献]

『ファンタジーの文法』(ジャンニ・ロダーリ、窪田富男訳、筑摩書房、1990)

『チポリーノの冒険』(ジャンニ・ロダーリ、関口英子訳、岩波少年文庫、2010)

『完訳ペロー童話集』(シャルル・ペロー、朝倉朗子訳、岩波文庫、1982)

『おとぎ話の社会史』(ジャック・ザイブス、鈴木昌訳、新曜社、2001)

『ツイステッドワンダーランド』

<https://twisted-wonderland.aniplex.co.jp/>

(当館語学講師)

ヴィンテージの魅力

谷口 和久

「ヴィンテージ」という響きには、なにかしら心惹かれるものがある。

ヴィンテージ・カー、ヴィンテージ家具、ひと頃前にはヴィンテージ・ジーンズなどというものも流行っていたし、近頃はヴィンテージ・マンションなどというものも現れてきた。それに、言葉のルーツともなったヴィンテージ・ワイン。元をたどれば、単に「ワインの生産年」を意味する言葉が、いつしか過去の銘品をあらわすようになった。

過去の銘品を現代の製品と比べて、「昔の人は良い仕事をしていた」といったたぐいのコメントもみうけられるが、大切なことは「古ければ、なんでも良い」というわけではない、ということだ。古くても、けって古臭くはない。時代の波に磨かれて、生き残ってきたものだけが兼ね備えた美しさというものがある。

また、ヴィンテージ品が美術品や骨とう品と異なるのは、現代においても実用に耐えうるといった点だろう。(気を使うことは多々あるが)。

ここでふと、古くても(あるいは古いほど)価値があるもので、なおかつ、こんにちでも実用的に使われているものは何があるだろうと考えを巡らせたときに、頭に浮んだのはヴァイオリンだ。

その筋ではヴィンテージではなくオールドと呼ばれるそうだが、ストラディヴァリウスやグァルネリといったところは日本円で 10 億をくだらない価格で取引されているという。いずれも製作当時は王侯貴族や高位聖職者といった名士たちが買い求め、のちにバガニーニを筆頭に、ハイフェッツなど名ヴァイオリニストたちがこぞって使った。名探偵シャーロック・ホームズもストラディヴァリウスを所有していたという。

彼らが求めたのは、もちろん音楽を奏でる道具として優れていたからだが、単にそれだけではないだろう。手にしたときに所有欲を満足させてくれるだけの、えもいわれぬ美しさを備えていることも必須要件だ。

そして、これら名士や名演奏家が所有することで一層の「箔」が付き、価格はさらにうなぎのぼりとなっていった。

自動車の世界では、「ヴィンテージ・カー」と呼べるのは 1919 年から 1930 年に製造されたものと定義されている。その前後はアンティーク・カーやクラシック・カーと、呼称が年代ごとにきっちり分けられている。

1919 年という、その前年に第一次世界大戦が終わり、人々の暮らしが取り戻された時代だ。そこから大恐慌までのあいだ、言うなれば史上初の「バブル」の絶頂に向けて、自動車も華やかなりし時代をいどった。それ以前は、スタイル的に馬車の延長線上にあったものが、ヴィンテージの時代には機能美やモダンさも加味しつつ、かつての優美さも兼ね備えたものとなっている。



【ヴィンテージスタイルの自転車】

出典元: <http://www.kinopio.com/>

Photo: Yasuda Masateru

自転車の場合、年代について自動車のように厳密に規定されているわけではない。鉄製(クロモリ製)のフレームに、ダブルレバーの変速機がついていれば、一般にヴィンテージ自転車と呼びならわされている。これにはおよそ 1980 年代以前のものが当てはまる。

自転車は、19世紀初頭に発明された当初、素材は木製で、地面を足で蹴って進む、なんともプリミティブなものであったが、その後、チェーンやゴムタイヤなどの発明により、19世紀末にはほぼこんにちと同じ姿に進化していった。

姿かたちはそっくりとはいえず、現代の私たちでも普通に使えるものとなると、第二次大戦後に作られたものということになるだろう。一番のネックは変速ギアで、第二次大戦以前のは後輪に手を伸ばして変速しなければならず、不安定な体勢をしいられるものであった。

フレームのフォルムも、1950年代あたりまでのものは、こんにちの視点で見るとやや古い印象を受ける。当時はまだ未舗装路が多く、路面からの衝撃をやわらげるため、言い方は悪いが、やや間のびしたプロポーションとなっている。路面が整備されたことで、60年代以降のモデルは引き締まって洗練されたように感じられる。

60年代以降の研ぎ澄まされた洗練さは、なにも路面の整備だけによるものではなく、自転車レースに対する情熱が社会全体で高まったことも大きく寄与している。こんにちヴィンテージ車として人気があるのも、この時代のものが中心だ。

60年代後半から70年代にかけてレースを牛耳ったエディ・メルクスはベルギー人だが、プロ時代に乗った自転車はすべてイタリア製である。マーゾ、コルナゴ、デローザと、彼が乗り継いだ自転車は一世を風靡した。数多くのフレームビルダーが切磋琢磨し、機能性のみならず、美的な点でも腕を競い合った。



【エディ・メルクスの自転車(ギザッロ博物館にて)】

日本でイタリアン・バイクの美しさが認識されたのは1964年に開催された東京オリンピックによるところが大きい。この時、海外の選手たちが乗っていたチネリという自転車の美しさ、完成度の高さが日本の自転車関係者に衝撃を与えたといわれている。

美しさとはいっても、華美に装飾をこらした美しさではなく、機能美といえようか。イタリアの自転車は、レースのための自転車、勝つための自転車として発展を遂げたのである。そのような無駄のない合理的な美しさが、日本の自転車関係者の心をとらえた。日本刀の美に通じるものがあるといえようか。

ヴィンテージ熱は、単に所有欲だけではなく、実際にまたがって乗り回したい、そして同好の士と語り合いたいというニーズも高まってきている。マニアの宿命だ。



【日本版エロイカを走る筆者】

本場イタリアでは、トスカーナの丘陵地帯をめぐる「エロイカ L'Eroica」という大会が人気を博している。ルールとして自転車はヴィンテージ車、服装も往時のようなニットやウールのジャージを着て出走しなければならない。コースはワイン畑のあいだを縫う未舗装路が大半であり、みな泥だらけになりながら、嬉々として楽しんでいる。

近年は日本でも同様の大会が開かれて、これもまた人気が高まりつつある。私も数年前に参加したが、お互いの自転車を眺めたり自転車について語ったりするときの目は、みな日常では見せることのない輝きをはなっていた。

ここまでヴィンテージ・バイクの魅力について語ってきたが、とても文章で伝えきれものではなく、やはり実物を目の当たりにしていただくのが一番だ。

今はコロナ禍で渡航はむずかしいが、イタリアには往年の名車をそろえた博物館が数多くあるので、興味のある方はぜひ訪れていただきたい。

最大のもは自転車の守護聖人をまつるギザッロ教会に付設の博物館だ。教会内にも選手たちから献納された自転車が数多くまつられており、おさめきれなかったものが博物館に陳列されている。コッピやバルタリ、メルクス、近年ではジャンニ・ブーニョやマルコ・パンターニの実車も並べられており、ファンには胸熱くなるラインアップだ。



【ギザッロ教会にまつられているコッピの自転車】

日本にも、数は少ないものの自転車専門の博物館がある。東京には目黒の自転車文化センター、大阪にはパーツメーカーのシマノが運営する自転車博物館サイクルセンターがある。いずれも自転車のみならず、関連資料なども充実しており、一見の価値がある。

またヴィンテージ・バイクを扱うショップも日本各地に増えている。大阪では松屋町のビチ・クラシカが有数の品ぞろえを誇る。店には店主のルイジ・ヴェラーティさん自ら整備した極上状態の自転車がずらりと並べられている。

機会があればぜひ実物を目にして、ヴィンテージ・バイクの持つオーラを感じていただきたい。

最後に、ヴェラーティさんが語ってくれたヴィンテージ・バイクへの思いを記して、この項を締めたい。

「かつては人間がインスピレーションとか経験とかアイデアとか、そういったもので自転車を作っていました。」

「昔の自転車というのは、人間が自転車に乗ることで、総体で美しく見える。人間と違和感がないんです。」



【ビチ・クラシカ】

<取材協力>

BI・CI・CLASSICA 大阪市中央区瓦屋町 2-14-8

バイオリン工房クレモナ 大阪府枚方市津田元町 1-23-8

【参考文献】

Giuseppe Nardini, *La bici d'epoca, L'Eroica*, 2009

『イタリアの自転車工房』(砂田弓弦著,アテネ書房,1994)

『イタリアの自転車工房物語』(砂田弓弦著,八重洲出版,2006)

『ロードバイク進化論』(仲沢隆著,榎出版社,2010)

『ヴィンテージロードバイク』(榎出版社,2003)

『ヴァイオリンの栄光』(ヨーゼフ・ヴェクスバーク著、野田彰訳、マルコ楽志堂、1984)

『アントニオ・ストラディヴァリその生涯と作品 ウィリアム・ヘンリー・ヒル他著、野田彰訳、弦楽器デュオ、1986)

『シャーロック・ホームズ最後の挨拶』(コナン・ドイル著、延原謙訳、新潮社、1955)

(当館スタッフ)

編集・発行 / (公財) 日本イタリア会館
〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮町 4
TEL: (075) 761-4356/FAX: (075) 761-4357
E-mail: centro@italiakaikan.jp
URL: <http://italiakaikan.jp/>